

京都市文化観光資源保護財団

会報

NO. **81**

2001. 6. 15

— もくじ —

— 寄稿 —

「祇園祭宵山の屏風飾り」

成安造形大学助教授 小 嶋 善 通 P 2

「世紀を結んだ送り火」

松ヶ崎妙法保存会会長 齋 藤 進 P 5

— 保 護 財 団 の 活 動 —

P 7





祇園祭宵山の 屏風飾り

小 寄 善 通

祇園祭の宵山に、山鉾町の町家で見られる屏風飾りのことを一名、屏風祭りともいう。以前より随分と少なくなったとはいえ、現在でも屏風祭りは宵山のそぞろ歩きの楽しみの一つである。古くは狩野派の屏風に始まり、円山四条派はいうに及ばず、流派、画題、技法、時代など、多岐にわたる京都画壇の名品の数々を直に見られることは、美術館などでガラス越しに鑑賞する以上に印象深い。屏風祭りは、まさに市民による市民のための展覧会である。京都の町衆が長年にわたって守り育ててきた京都画壇の画家たちの作品を、うぶな形で拝見できるまたとない機会なのである。

宵山の屏風飾りのなかで秀逸なものの一つに、八幡山町会所で拝見できる「祇園祭礼図屏風」(写真)がある。桃山時代の巨匠海北友松かいほうゆうしょうの一子、海北友雪ゆうせつ(1598~1677)の筆になる6曲屏風1隻である。祇園祭礼図も、江戸時代に入ると熱狂的な群集描写は影を潜め、山鉾や神輿の祭列描写に主眼が向けられるようになる。祭礼図から巡行図へ、事象から事物へと、志向の変化が認められるのである。本図は、まさにその傾向を如実に示す作例であり、町内の古文書によると、安政2年(1855)当町住人の萩野河内守による寄進で、「明暦年間(1655~58)の筆」とされる。画面を上下2段に分け、上段の



祇園祭宵山の
屏風飾り

を描き、下段の三条通に還幸する神輿3基を描く。後祭りに巡行するすべての山鉾を描きこむなど、祭りの形態の描写に意を注いでいる。町内に寄進されたのは元々1隻のみであるが、本来1隻をなす他隻には、もちろん前祭りの山鉾巡行が描かれていたであろうことは想像に難くない。

ところで、宵山に屏風を飾るという美風は、はたしていつ頃から生まれたものであろうか。もともと宵山は夜を徹して祭礼の当日を迎える素朴な行事であった。これが、いつしか華やかさを増し、屏風を飾るなどして客をもてなすようになる。やがて、それを目当てに一般の見物客が集まりだす。これが屏風祭りの始まりである。

近世の絵画資料には、残念ながら宵山の屏風飾りの様子をとらえた作品は残されていないようである。宵山の翌日、山鉾巡行当日の様子についていえば、数多く伝わる祇園祭礼図屏風を見ると、17世紀初めの作品では未だそうした風習は描かれていない。これが、先にみた17世紀半ばの八幡山保存会の屏風になると、三条通に面した家々では表格子を外し、室内に屏風を立て回し、山鉾巡行を迎えるところが描かれる。町人階層が、祭りを優雅に楽しむ経済的な余裕をもつようになったことがうかがえよう。

文献ではどうであろうか。延宝4年(1676)

の『日次紀事』では、未だ宵山の記事は見当らない。しかし、これより1世紀ほど下がる18世紀半ば、宝暦7年(1757)の奥書をもつ『祇園御霊会細記』には、既に屏風飾りの慣例が定着していたことを示す記載がある。同書上巻の「祇園祭記」の「宵夜鏑の事」に次のようである。

「祭礼の町々、前日より提灯ちようちんを夥おびたしく敷し敷くとし、幕をうち、金銀屏風、羅紗毛氈らしやもうせんのたぐひ、他にをとらじと粧まひかざりて、客をまふく」
ここには、単に接客のための座敷飾りの一部として屏風をしつらえるのではなく、他家と競合して、積極的に屏風を飾り立てている状況がありありと見てとれる。安永6年(1777)の『太祇句選後編』にある次の一句は、こうした屏風祭りの活況を詠んだものである。

「まつりの日屏風あわせ合の判者かな」

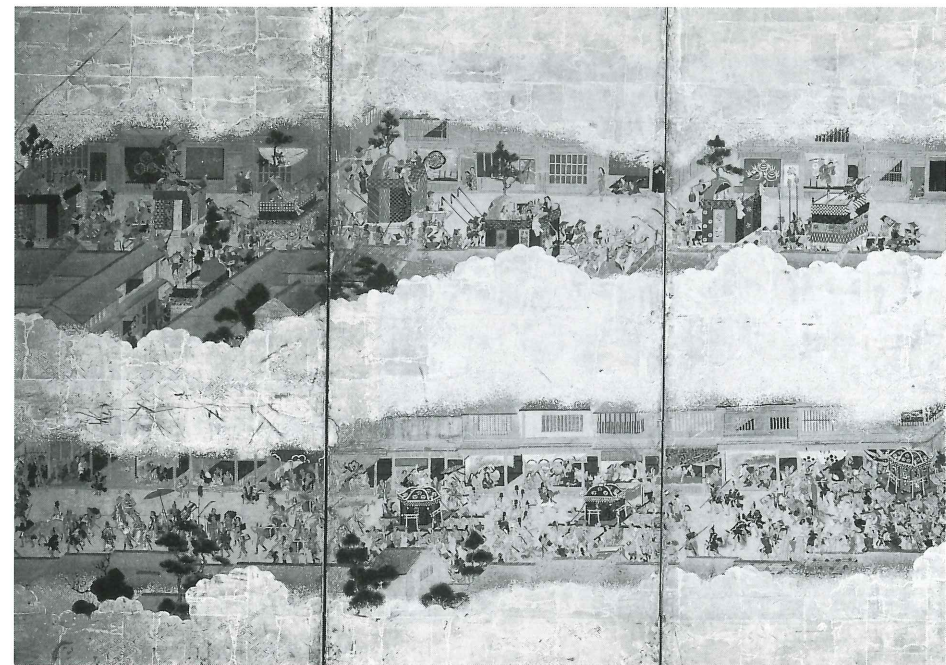
これらから、17世紀末から18世紀前半ごろに宵

山が賑やかさを増し、以降、屏風祭りも盛んになっていったことがうかがえる。

祇園祭りの宵山のみならず、一般に夜間の行事は、このころを境にして賑やかさを増していくようである。祇園祭りの期間に合わせて行われていた四条河原納涼も、享保年間末頃(1730年代)から納涼床ゆかだけでなく見世物小屋などで賑わうようになる。また、角屋をはじめとする京都島原の店々も、享保10年(1725)までは昼間のみの営業であったという。

司馬遼太郎氏が『菜の花の沖』の冒頭に記すように、この時期、技術革新などにより菜種油の大量生産が始まり、それが安価に流通するようになる。菜の花畑の広まりとともに、明かりをとす菜種油が増産され、都に夜の華が咲く。屏風祭りもまた、その大輪の華の一つだったのである。

(成安造形大学助教授)



写真：
「祇園祭礼図屏風」
(部分)
海北友雪筆
財八幡山保存会所蔵



世紀を結んだ 五山の送り火

齋藤進

平安建都千二百年の時であった。百年前の千百年の時と同じように盛大な記念行事をしたい。ついでには、そのメインイベントとして、「大文字五山送り火」を12月31日の夜に点火して欲しいとの申し出であった。これを受けた私達は、送り火は8月16日お盆の先祖送りの行事のみを考えていたので、大変吃驚したものである。各五山の意見を集約した結果、大勢としては、積極的に賛同する保存会はなく、記念行事に参加できないとの結論になった。関係者には、誠に申し訳ない結論であった。

しかし、その時の申し出を受け、議論した事は「送り火」のおかれている今日的な意義を考える良い機会ともなった。

その後、数年がたち「21世紀京都幕開け記念行事」について、市民の代表からのアンケートの中で、「大文字五山送り火」を12月31日の夜、カウントダウンの時に点火して欲しい。との意見が圧倒的であった。又、世紀を結ぶ火の祭りには、京都なら五山の送り火が絶対欠かせない。というのが市民の声である。是非、大文字五山送り火を点火して欲しい。との要望が寄せられた。

早速、議論したが建都千二百年の時と同じように、実施に消極的な意見が大勢を占めた。しかし、今回は市民参加の行事であり、再度協議して欲しいとの事であった。

各五山の保存会では、それぞれ協議したが、建都千二百年の時と同じ意見が多く、会員の協力を得る事が極めて困難な状況であった。しかし、京都市行政当局の涙ぐましい努力と各保存会において、若手を中心に前向きな気運もあり、再度五山連合会として協議した。結論は、「五山すべてが参加する事。一山でも不参加があれば辞退する」事で一致した。その後、各保存会では、以前の意見と角度をかえて話し合い消極的な山もあったが、互いに折れ合い、理解に努め五山すべてが参加する事に決定した。私達五山の関係者は、反対の為の反対ではなく、五山の送り火の歴史即ちこれを守ってきた村人の心が「お盆の送り火以外に点火できるのか」のこだわりをどうクリアするかであった。

京都の伝統行事は、多くの町衆によって守られ続けている。古い歴史を重ねながら間違いなく引き継がれているのである。しかし、今回のように「12月31日になんでや？」となるとこのことが会員の全部に一定の理解が得られないと、送り火自体がやりにくくなる。一軒でも不参加が出ると今後に大きいしこりを残し、伝統が守れなくなるからである。今回の12月31日の送り火は、五山の村人達に「なんでや」を問いかけ、これを克服する為に苦しんだのである。

五山の送り火の担い手即ち会員は、一種の世襲制である（例外もあるが）。それぞれの山の麓に住み、農業や林業に従事し、地元のお寺を大切に守ってきた人々である。したがって、すべての家では、お盆になると先祖の霊を迎え、手厚くもてなし子孫と共に祈る。次には、8月16日の夜迷いなく、先祖にあの世へ帰って頂くために、子孫が揃って賑やかに足元を明るく照

らして送るのである。

したがって、今回の提起の二十世紀と二十一世紀を結ぶ送り火が、自分の先祖とどんな関係があるのか。みだりに点火する事は先祖に対する冒瀆でないのか？というような難問もあり極めて多難であったが、戦争と環境破壊の二十世紀を送り、平和と人権、明るい二十一世紀を迎えるこの節目に五山の送り火を京都から世界に発信する主人公である事を私達は確認したのである。

そして、百年に一回の又とない機会である。多くの人々に感動を与える火を、京都の山々に点火しようと改めて決意した。12月31日の天候はまさに奇跡であった。午後5時～6時頃小雨が降り、冬には珍しい霧が発生し、大文字も見えず又大文字から京都の街も見えない状況であった。しかし、点火の一時間位前、寒い北風が吹きはじめ、霧をはらいのけ東山から北山が黒々と浮かび、澄み切った空と共に送り火の点火を待っているようであった。午後9時に点火、冬の澄み切った空に漆黒の山々に赤々と送り火が点火され、その美しさは夏のお盆では見られない美しさであった。今まで約一年余、議論し準備した苦労が思い出され同時に、この成功は五山揃って点火する事を各山の先祖が祝福してくれたものと改めて手を合わせ拝んだのである。

今回の21世紀幕開け記念事業への参加によって、京都の大文字五山送り火は一保存会だけの

先祖の送り火でなく、広く京都市民すべてが待ち望み手を合わせて拝んでくれる大切な伝統行事である事を知った。その支えを大切に、今後も大文字五山送り火を守り、送り火の意義を多くの人々に考えてもらいたいと思う。

「色々な思い出を送り反省し、新しい可能性の未来を迎える」大晦日の送り火に想う。

(松ヶ崎妙法保存会会長)



点火された「松ヶ崎妙法送り火」の火床
(写真：昨年8月16日の撮影)



昨年12月31日に点火された「松ヶ崎妙法送り火」
(写真：左大文字山上より撮影)

平成12年度 文化観光資源保護事業助成

平成12年度助成申請のありました保護事業69件に対し、下記のとおり総額64,610千円の助成をおこないました。

◆四大行事（葵祭、祇園祭、大文字五山送り火、時代祭）執行に対する助成

対象件数 4件 助成金 39,480千円

◆四大行事（祇園祭山鉦修理・大文字五山送り火火床整備）の保存に対する助成

対象件数 13件 助成金 6,030千円

函谷鉦保存会一車輪（一輪）修理等、放下鉦保存会一鉦屋根箱棟（漆塗替）修理等、役行者山保存会一御神体（葛城神両腕・肩）修理等、占出山保存会一御神体修理等、岩戸山保存会一車輪（後輪）修理、芦刈山保存会一御幣金幣・房新調等、四条傘鉦保存会一花笠修理等、鶏鉦会一御幣修理、大文字保存会一下草刈り等、松ヶ崎妙法保存会一妙法火床防錆等、船形万灯籠保存会一絵刈り等、左大文字保存会一本立伐採等、鳥居形松明保存会一貯水槽整備等

◆文化観光資源保護事業に対する助成

対象件数 12件 助成金 10,020千円

●建造物の部 6件 4,200千円

賀茂別雷神社一北門及び境外末社藤木社屋根葺替工事、常照寺一山門（吉野門）修理工事、観音寺一本堂外陣（礼堂）屋根葺替工事、安楽寺一書院修理工事、菅大臣神社一本社拝殿向拝屋根葺替工事、建仁寺一開山堂客殿等屋根葺替工事

●美術工芸品の部 4件 2,520千円

禅林寺一紙本金地着色二曲一隻屏風「柳に

鶏図」修理、霊鑑寺一紙本金地着色書院襖絵修理、文子天満宮一木造狛犬（一對）修理、海福院一紙本墨画本堂襖絵「山水人物図」修理

●その他施設の部 2件 3,300千円

京都古文化保存協会一松毛虫駆除事業、霊山顕彰会一霊山一帯及び各招魂社周辺整備

◆伝統行事、芸能の保存及び執行に対する助成

対象件数 40件 助成金 9,080千円

●行事の部 14件 4,470千円

嵯峨お松明、賀茂競馬、藤森駈馬、糺の森流鏑馬、鞍馬山竹伐り、花脊松上げ、広河原松上げ、雲ヶ畑松上げ、烏相撲、瑞饋祭、北白川高盛御供、日野裸踊、鞍馬火祭、松尾祭桂川舟渡御

●芸能の部 26件 4,610千円

蹴鞠、雅楽、念仏狂言（壬生、神泉苑、千本えんま堂、嵯峨）、六斎念仏（吉祥院、久世、中堂寺、梅津、小山郷、千本、嵯峨野、壬生、円覚寺、西方寺、桂）、やすらい花（川上、今宮、玄武、上賀茂）、久多花笠踊、八瀬赦免地踊、松ヶ崎題目踊、大原八朔踊、上棟祭

◇第56回 理事会・評議員会

4月17日第56回理事会・評議員会を上山理事長ほか34名の役員（代理者を含む）の方々の出席のもとに開催しました。

会議では、役員の一部異動、平成12年度事業報告並びに収支決算、平成13年度事業計画並びに収支予算（案）について審議がおこなわれ、いずれも原案のとおり可決決定しました。

新任役員（順不同・敬称略）

評議員 椋田知雄（京都市会文教委員長）

〃 大谷 實（学校法人同志社総長）

〃 植田晨一郎（日本ホテル協会京都支部長）

〃 谷口 進（社団法人京都市観光協会専務理事）

退任役員（順不同・敬称略）

評議員 津田幹雄（前京都市会文教委員長）

〃 松山義則（〃学校法人同志社総長）

〃 八軒敏夫（〃日本ホテル協会京都支部長）

〃 山盛善三郎（社団法人京都市観光協会副会長）

◇平成12年度 文化観光資源保護協力者感謝状贈呈式、伝統行事芸能功労者表彰式

第56回理事会・評議員会終了後に京都市文化観光資源保護基金に多額の御寄付を寄せていただいた方々と永年にわたり伝統行事芸能の保存、継承に功績のあった方々に、感謝状、表彰状と記念品が、それぞれ贈呈されました。受賞者は次の方々です。（敬称略・順不同）

◆京都市文化観光資源保護基金寄付者

株式会社一保堂茶舗、西尾齋、中西ふみ子、宮城龍暁、今西信一、垂水稔、辻田純二、白澤照子

◆伝統行事芸能功労者

吉積増太郎（西之京瑞饋神輿保存会）、兵庫實（石座神社奉賛会）、芝昭夫（上賀茂さんやれ保存会連絡協議会）、青木松男（梅林寺ジジバイ講保存会）、鳥越英徳（壬生大念佛講）、久瀬進弘（久世六斎念仏保存会）、秋田吉博（京都中堂寺六齋會）、藤本正博（壬生六斎念佛講中）、川崎龍性（六波羅蜜寺空也踊躍念仏保存会）、保司正千代（社団法人八瀬童子会）、山田寛二（大原伝統文化保存会）、河村正男（一乗寺郷土芸能保存会）、渡辺與志夫（上高野念仏供養踊保存会）



受賞者のみなさん

◇第11回 京の歳時記展 —— 京の火祭 ——

12月15日～1月14日に、京都芸術センターにおいて開催しました。今回は、昨年末に行われました「21世紀京都幕開け記念事業・京都21」と連動し、京都の火祭をテーマに実物の資料や写真パネルを展示し、紹介しました。期間中1,450名の鑑賞者を数えました。

◇第31回 京の郷土芸能まつり —— 都の賑わい 祭り まつり ——

2月25日、京都会館第1ホールにおいて開催しました。今回は、文化財保護法の公布、施行50周年を記念し、国の重要無形民俗文化財に指定されている「上賀茂やすらい花」をはじめとする5団体の芸能に京都府の「上粕の精霊踊」、小京都の芸能として大分県日田市の「日田祇園囃子」を特別出演に加えた7演目を舞台で紹介し、郷土芸能の保存育成に対する理解と協力を呼びかけました。

◇京の文化財探訪 —— 尼門跡寺院「霊鑑寺」春の特別公開 ——

4月6日～15日に、8,423名の参加者のもと「霊鑑寺」の春の特別公開を実施しました。京都市指定天然記念物の「日光椿」をはじめ約30種類の椿の咲き誇る庭園を鑑賞していただきました。

平成13年度 事業計画

I. 文化観光資源保護事業

1. 文化観光資源の保存修理, 防災施設整備等の保護事業に対する助成
2. 四大行事並びに伝統行事, 芸能の保存及び執行に対する助成
3. 京都市嵯峨鳥居本町並み保存館の管理運営, 京都市管理の史跡・名勝・天然記念物等22ヵ所の保存管理
4. 助成対象をはじめとする文化財の実態調査など
5. 文化財保護行政機関との協議など

II. 文化観光資源保護思想の啓蒙普及事業

1. 会報の発行
2. 文化財カレンダーの発行, 「近代京都の名建築」, 「京都大文字五山送り火」等の販売, その他冊子の発行など
3. 文遊回廊, 文化観光資源の公開事業, 京の郷土芸能まつりの開催など
4. インターネットによる情報発信
5. 伝統行事芸能功労者並びに文化観光資源保護協力者に対する表彰
6. 文化財観光資源保護協力者(会員)に対する公開事業の招待・案内, 出版物の優待頒布など
7. 文化観光資源保護関係団体等がおこなう各種事業の後援

III. 募金活動

1. 現会員に対する追加募金の呼びかけ
2. 市民募金運動の推進として啓蒙普及事業等を通じての募金の呼びかけ

京都市指定文化財 杉本家住宅
「祇園祭屏風飾り」特別公開

京都市内最大規模の^{おおだな}大店の遺構である杉本家住宅の「祇園祭屏風飾り」の特別公開を行います。

京町家ならではの夏の^{しつらい}室札と当所蔵の屏風飾りなどをご覧いただき, 祇園祭のもう一つの魅力である「屏風祭」を鑑賞していただきます。

又, 祇園祭の宵山には, 夜の公開も行い, 燈籠の灯かりなどで演出された座敷庭や露地庭など, 京町家の夜の情緒を楽しんでいただきます。

実施内容

I 「祇園祭屏風飾り」特別公開

日 時: 平成13年 7 月 8 日(日)~16日(月)

※但し, 14日(土)は, 見学不可

午前10時30分~午後 5 時

見学科: 1,000円 (中学生以上)

II 夜の特別公開

日 時: 平成13年 7 月15日(日)・16日(月)

午後 6 時30分~午後 9 時30分

見学科: 1,500円 (中学生以上)

※各見学科は, 「杉本家住宅」の維持保存や京都の文化財保護に役立てます。

※文化財企画展※

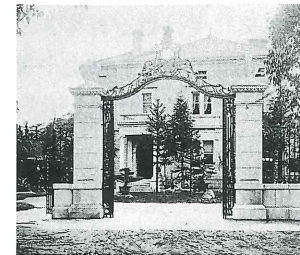
「京都・住まいの近代
— 西洋館からモダン住宅へ —」

京都における明治から昭和戦前期までの近代洋風住宅の変遷を紹介する文化財企画展「京都・住まいの近代—西洋館からモダン住宅へ—」を開催します。

京都の近代洋風住宅の変遷を, 建築に関する図面, 古写真等の資料及び現況写真などをパネル展示により紹介します。

又, 展覧会の開催にあわせて, 明治期と昭和初期の京都の近代洋風住宅の建築遺構であり, 京都市指定文化財でもある「長楽館」と「駒井家住宅」の特別見学事業『京の西洋館を訪ねて』を実施します。

◆◆展 覧 会◆◆



建築当時(明治42年・1909)の「長楽館」(写真パネルにて展示)

開催日時: 平成13年 7 月 1 日(日)~22日(日)19日間

午前10時~午後 8 時 (但し, 14~16日休所)

会 場: 京都芸術センター
(京都市中京区室町通錦小路上ル)

入 場 料: 無 料

◆◆文化財特別見学◆◆

『京の西洋館を訪ねて
—「長楽館」と「駒井家住宅」—』

□「長楽館」特別見学



日 時: 平成13年 7 月20日(金・祝), 21日

(土), 22日(日) 3 日間

午前 9 時30分~午後 4 時 (受付は,

午後 3 時30分まで。但し, 正午から午後 1 時は, 見学出来ません。)

場 所: 長楽館(京都市東山区円山公園)

見学対象: 非公開の建物内部や建築当初の家具等の鑑賞

見 学 料: 1,000円 (中学生以上。コーヒー又は紅茶付き)

□「駒井家住宅」夜の特別見学



日 時: 平成13年 7 月20日(金・祝), 21日

(土), 22日(日) 3 日間

午後 6 時~午後 8 時30分 (受付は, 午後 8 時まで。)

場 所: 駒井家住宅(京都市左京区北白川伊織町)

見学対象: 夜のライトアップや音楽を聞きながら, 非公開の建物内部, 遺伝学の権威であった故駒井卓京都大学理学部教授ゆかりの資料等の鑑賞

見 学 料: 1,000円 (中学生以上。)

※「駒井家住宅」は, 乳幼児同伴の見学は不可。
※見学科は, 「長楽館」, 「駒井家住宅」の文化財維持保存及び京都の文化財保護に役立てます。

※上記の各文化財特別見学事業を財団会員の方には、各見学料を以下のとおり割引によりご参加していただけます。ご希望の方は、当財団事務局（TEL 075-752-0235）までお申し出下さい。（7／4 締切）

杉本家住宅「祇園祭屏風飾り」特別公開
1,000円→700円（会員扱い）

〃 夜の特別公開

1,500円→1,000円（会員扱い）

京の西洋館を訪ねて「長楽館」特別見学
1,000円→700円（会員扱い）

〃 「駒井家住宅」夜の特別見学
1,000円→700円（会員扱い）

◇◇◇これからの予定事業◇◇◇

●国指定名勝「對龍山莊庭園」特別公開

京都市左京区南禅寺にあって、小川治兵衛（植治）の作庭による東山を借景に取り入れた雄大な景観が見所の別荘庭園である国指定名勝「對龍山莊庭園」の初めての特別公開を、10月から11月にかけて実施を予定しています。

●京の文化財探訪「建仁寺開山堂と両足院を訪ねて」

建仁寺「開山堂」の客殿障壁画や塔頭寺院である「両足院」の長谷川等伯筆による客殿襖絵、庭園等の非公開文化財を鑑賞していただく京の文化財探訪事業を10月14日(日)～21日(日)に実施します。

尚、前記の事業の詳しいご案内は別途ご送付させていただきます。

インターネットホームページの
アドレスが変りました

当財団が開設していますインターネットホーム

ページのアドレスを下記のとおり変更しました。

今後も京都の文化財や観光資源、財団活動などを逐次更新していきますので、皆様もアクセスしてご利用下さい。

新アドレス <http://www.kyobunka.or.jp>

刊行物のご案内

「京都大文字五山送り火」

何百年にわたり京都の夏に受け継がれてきた京の伝統行事「大文字五山送り火」の歴史や各五山の送り火が点火されるまでの様子などを約160点の写真を中心に解説を添えて紹介しています「京都大文字五山送り火」《A4変形判・68ページ・定価1575円（税込）》を刊行しています。

会員の皆様には、定価の約1割引・1365円（税込）で、頒布しています。又、郵送（送料310円必要）をご希望の方はお申し出下さい。

編 集 後 記



本号では、成安造形芸術大学助教授の小嵯善通氏から祇園祭の宵山に行われる屏風飾りについて、又松ヶ崎妙法保存会会長の斎藤進氏から「21世紀京都幕開け記念事業」において行われた大文字五山送り火の点火に至るまでのご苦心について、それぞれご寄稿を寄せていただきました。長い時代の変遷の中で、受け継がれてきたこれら京都の伝統行事を、現代に生きる私達の責務として伝承していかなければなりません。今後とも、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

会 報 No.81

2001.6.15

会 報 題 字／理事長 上山善紀

会 報 表 紙／祇園祭宵山風景 撮影／神崎順一

編集・発行／財団法人京都市文化観光資源保護財団

京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606-8342 TEL 075 (752) 0235

FAX 075 (752) 0236

URL <http://www.kyobunka.or.jp>